

西濃農林事務所の普及活動状況

平成30年8月31日現在

今月の重点活動

■朝市農産物直売所 朝市農産物生産研修会を開催

農業普及課は7月31日、西濃総合庁舎において、西濃地域の農産物直売所への出荷・生産者や関係者などを対象に朝市農産物生産研修会を開催し、60人が出席した。研修会では「農産物の食品表示について」、「野菜づくりのポイント」、「農薬の安全な使用について」及び「葉物野菜の衛生管理」を説明し、法令順守、制度改正への対応、農業用資材の適切な取り扱い等について情報提供した。また、「朝市農産物に使われる主な農薬の使用の目安（一覧表のポスター）」を2,400部印刷、各直売所へ配布し、より一層の安全・安心な農産物の生産を啓発した。

研修会後のアンケート結果は概ね好評で、もっと時間をとって詳しい説明が聞きたい、との意見も多かったことから、次回への改善点としたい。



【朝市農産物研修会】

多様な担い手づくり

■指導農業士会西南濃支部 視察研修会が開催される

岐阜県指導農業士連絡協議会西南濃支部の視察研修会が8月2日に開催された。訪問先の滋賀県の(株)浅小井農園^{あさこいのうえん}では、平成20年のトマト生産法人設立直後にJGAP認証を取得し、社員全員がJGAP指導員資格を有するなどリスク管理や経営改善に絶えず努力されている他、販路拡大や加工の取り組み、労働力の確保など興味深い話題を聞き、活発な意見交換がされた。また、池田牧場では、地産地消、6次産業化や起業に係る苦労話を聞き、今後の農業経営に向けて参考となる視察研修になった。

農業普及課は、視察研修コースの提案、当日の研修支援等を行った。



【浅小井農園代表から説明を受ける】

■若手農業女性交流会 女子トークで仲間づくり

女性農業経営アドバイザーと農林事務所は8月7日、西濃総合庁舎において若手農業女性交流会を開催した。今回は若手農業女性4名を迎え、インスタ映えするハーバリウム（「植物標本」：押し花やブリザーブドフラワーと並び、最近人気があるボトルに植物を入れ、専用のオイルで満たしたもの）づくりと題してアドバイザーが講師となり、瓶の中に見栄えよく花を入れる方法や、色合い等のアドバイスを受けて完成させた。完成後は、アドバイザー及び農業女子の活動紹介、日々の農家生活、農作業の苦労や改善方法などの情報交換を行い、新たな仲間づくりの会となった。



【完成品を持って皆でパチリ】

売れるブランドづくり

■トマト トマト葉先枯れ軽減技術の導入並びに土づくり、施肥設計相談の実施

トマト葉先枯れ症状は、カリ成分が不足すると発生しやすくなる。防止するためには、トマトが必要とするカリ成分を計算し、あらかじめ土壌に投入しておく必要がある。そこでJA

にしみのと農業普及課はトマト生産者に対し、8月3日はJAにしみの池辺支店、7日はJAにしみの輪之内支店において、平成31年産の栽培に向けた、土壌診断結果による土作り並びに施肥設計の相談を行った。また、今年度から、トマト葉先枯れ軽減対策として実施している硫酸加里の投入量の見直しも行った。トマト葉先枯れ軽減技術は、農業技術センターとともに現地試験を実施して効果が確認することができたため、今回技術の導入に踏み切った。

生産者からは、「実際に栽培管理をして、カリ不足は実感していた。この方法を採用する」、「通常よりも資材の投入量が多く、心配である」など多種多様な意見がでたが、部会として取り組むこととなった。農業普及課は今後、巡回等を通して効果の確認を行う。

■ブロッコリー **各地域で播種が始まる**

ブロッコリーの育苗が、西濃地域の各部会で始まっている。平成30年は地域全体で約33ha（前年より約2ha減）となる見込みである。西濃地域では、共同育苗を行う部会、花農家や法人に育苗を委託する部会、自ら育苗を行うブロッコリー農家もあるなど、様々な形態で育苗が行われている。今年は異常高温であったため、発芽時に高温障害を受け、発芽不良となっている苗もあったが、全体的に生育は順調である。農業普及課は播種支援を行うとともに育苗農家を巡回し、育苗並びに病虫害防除指導を行った。

■ナバナ **栽培研究会を実施**

8月9日に海津ナバナ部会研究会が開催され、平成31年産に向けた育苗、ほ場準備、定植などの栽培管理及び農薬の安全使用講習を行った。今年は厳しい残暑が予想されるが、9月に入ると本格的な播種作業が始まる。農業普及課は、気象災害に備えた栽培管理を中心に講習を行った。今後は、部会で維持、管理されている種子の確保、シーダーテープを用いた直播栽培による作業の省力・安定生産技術について支援を行う。

今年も定年帰農など、新たな就農者の発掘を目的にJAが主催する「海津やさい塾」においてナバナと春菊栽培に取り組むことになっている。栽培体験も含めたカリキュラムの中で、生産維持・拡大に向けて就農相談、部会加入、栽培支援など段階的な支援を行う。

■神戸町下宮青果部会協議会

(有)健康やさい村～おもてなし食材披露会、グローバルGAP外部審査～

8月3日、東京のホテルニューオータニにおいて「清流の国ぎふ」おもてなし食材披露会が開催され、GAPに取り組む生産者の代表として(有)健康やさい村も出席した。食材披露会のミニトークで、(有)健康やさい村のグローバルGAP認証取得に向けた取り組みや考え方について発表がされた。また、この披露会には、西濃管内から米でJGAP認証を取得した大垣養老高校も参加し、GAP推進に関する決意表明などがなされた。農業普及課は資料作成や、当日の随行対応を行った。



【おもてなし食材披露会
ミニトーク】

また、8月17日にはGAPアドバイザー派遣制度を活用し、外部講師を招いたコンサルタントが行われた。前年度のコンサルタント結果の不適合項目を中心に検討・修正した事項について、再度コンサルタントを受けた。

県GAP認証についての研修会を開催

8月7日に神戸集出荷センターにおいて、神戸町下宮青果部会協議会を対象として、県GAP認証に向けた研修会が開催され、取得希望のある26名が出席した。農業普及課からは県GAPの概要及び農場管理基準等の説明を行った。

この研修会を受け、今年度認証取得希望者を対象に、今後は農場評価や内部監査を開始し、今年度の取得をめざす予定である。農業普及課は今後も取得に向けて支援していく